

<センター通信 R3 年1月号>



中津川市地域総合医療センター
阿木診療所 医師 勅使河原 志保

高齢者の肺炎球菌ワクチンは、ニューモバックス NP を1回接種！！

10月から阿木診療所で毎週木曜日に診療を担当させていただくことになりました
勅使河原志保(てしがわらしほ)です。

阿木診療所の患者様は、高齢の方の割合が高く、肺炎球菌予防接種も受けていた
だいています。今回は高齢者の肺炎球菌ワクチンについてです。

〔肺炎球菌感染症とは？〕

肺炎球菌感染症(肺炎や菌血症や髄膜炎など)は、肺炎球菌という細菌によって引
き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛
沫感染します。肺炎球菌には 93 種類の型があり、成人、特に高齢者および免疫不
全状態の方などにとって罹患率と死亡率の高い原因のひとつです。

日本人の約 3~5%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これ
らの菌が何らかのきっかけで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすこ
とがあるといわれています。

〔肺炎球菌ワクチンとは？〕

日本では2つの製剤が認可されており、高齢者にはニューモバックス NP が使用さ
れます。

・ニューモバックス NP(23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン PPSV23)とは？

23 種類の型に効果があります。この 23 種類の型は成人の重症の肺炎球菌感染
症の原因の 64%であるといわれています。

・もうひとつの製剤プレベナー13(沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン PCV13)

ニューモバックス NP と併用することが良いとされていた時期もありますが、最新の知見では、プレベナー13(PCV13)の型によって引き起こされる肺炎球菌感染症の発生が非常に低いため、脾臓摘出後の方や、免疫不全などがない限り、通常高齢者には、プレベナー13は投与しないこととなりました。

【どんな人が接種をするべき？】

肺炎球菌感染症または肺炎球菌感染症による重篤な合併症のリスクがある 65 歳以上のすべての成人および 65 歳未満の成人には、肺炎球菌ワクチン接種をお勧めします(日本だけでなく世界で推奨されています)。



【接種の頻度は？】

以前は 5 年毎の接種が標準でしたが、最新の知見では必ずしも 5 年ごとに接種をしなくても、1 回接種でよいといわれています。

しかし、患者さんによっては接種が数回必要な方もありますので、主治医とご相談ください。

【予防接種後の副反応について】

注射部位の反応(圧痛、発赤、部位の腫れ)は、成人の肺炎球菌ワクチン接種に関連する最も一般的な副作用であり、通常は軽度です。ほとんどはワクチン接種から数日以内に解決します。温湿布と非ステロイド性抗炎症薬は症状の緩和に役立ちます。

【おわりに】

公立3診療所(蛭川・川上・阿木)で高齢者の肺炎球菌感染症予防接種を行っています。不明な点等、お気軽にお問い合わせください。

